

**【教員氏名】**

モグベル ザファル  
研究室:聖アンデレ館 10 階 1010 号室  
メールアドレス:mogbel@andrew.ac.jp

**【授業形態】**

講義

**【講義・演習概要】**

現在は「グローバル化の時代」と言われていますが、グローバルな環境では「ヒト・モノ・カネ・技術・情報」が国境にほとんどさまたげられることなく双方向に移動しています。この講義では、グローバルな双方向の動きの中核をなす「モノの移動」(つまり、貿易)に焦点を置き、貿易の歴史、日本の貿易の現状分析、貿易実務、貿易理論の基礎などのテーマを扱います。

**【学習目標】**

国際経済論・I では主に下記のテーマについて学び、理解することを目指します:

(1) 国際収支論、(2) 日本の貿易構造の変遷、(3) 経済グローバル化と世界経済の未来像

**【講義計画】**

- 第 1 回: 国際経済入門: 歴史に見る貿易のダイナミック効果と文明の歩み  
第 2 回: 国際経済入門: 「ヒト・モノ・カネ・技術・情報」の自由な移動とグローバル化  
第 3 回: 国際収支統計の基礎知識: 国際収支表の仕組み  
第 4 回: 国際収支と対外資産負債残高: 経常黒字・赤字の処理  
第 5 回: 対外純資産の国際比較とその意義: 世界最大の債権国としての日本  
第 6 回: 国際収支の発展段階説: 時空を超えた調整  
第 7 回: 貿易と経済発展: 自由貿易 vs 保護主義再考  
第 8 回: 変わりゆく日本の貿易構造: 1985 年以降の輸出構造を検証する  
第 9 回: 変わりゆく日本の貿易構造: 1997 年以降の輸入構造を検証する  
第 10 回: 日本の国際収支: 歴史的観点から見て  
第 11 回: 日本の国際収支の最近の動向: 半世紀ぶりの赤字の分析  
第 12 回: 国際収支の調整: アブゾープション・アプローチを中心に  
第 13 回: 国際収支の調整: 弾力性アプローチを中心に  
第 14 回: マーシャル・ラーナー条件: J-カーブ効果と貿易摩擦の負の遺産  
第 15 回: 世界経済の未来像: 地域統合と新ルールの展開

**【成績評価の方法】**

試験評価:90% レポート:0% 出席:10%  
試験:90% レポート:0% 授業への積極的な参加:10%  
授業への積極的な参加の評価については、授業中に行う数回の小テストの結果によってきまる。

**【使用テキスト】**

なし

**【参考文献】**

テキストの代わりに、ほとんど毎回資料を配布するので、配布資料の責任ある管理を各人に期待する。

**【準備学習の指示(事前学習 30 時間、事後学習 30 時間)】**

ミクロ・マクロ経済学の基礎を学習しておくこと。配布資料を正しく管理すること(資料の再配布はしません)。

**【その他備考(担当教員用)】****【備考(管理者用)】**

(旧:国際経済論)02~10E・CBCC 生読替